

# 松中魂！

令和4年度12月号



やる気・根気・元気・連帯

草津市立松原中学校

〒525-0029 草津市下笠町110番地

TEL : 077-568-0246 FAX : 077-568-3479

HP <http://www.matsubara-j.skcc.ed.jp/>

## 2学期のふりかえりをしっかり行いましょう。

本日、2学期の終業式を行いました。明日から冬休みになります。短い休み期間ですが、この1年間の自分の姿をしっかりふりかえり、そのことをもとに、確かな見通しと計画をもって、新しい年を気持ちよく迎えられようようにしましょう。この冬休みは、ぜひ、家庭学習の時間を充実させてください。また、読書を楽しむ時間をもてるようにしましょう。そして何よりも、病気の予防とケガや事故の防止に努め、健康で安全に毎日をご過ごしてください。

新型コロナウイルス感染症が世界規模で流行、そして蔓延し、国内でも、その終期が見通せず今年で3年が経過しようとしています。今年も、第何波と呼ばれる感染流行の波が社会生活の中で取り上げられ、しかも、その波長が月日の経過とともに徐々に大きくなっている状況にあります。学校では、感染防止対策として、日々の健康観察はもちろんのこと、手洗いやうがいの励行、マスク着用、換気や消毒の実施など、様々な取組を継続して行ってきました。以前にもお伝えしましたが、今では、これまでの取組が日常化して、その一つひとつが当たり前のようになっており、一つでもおろそかにすると不安になったり、流行状況に応じて取組が緩和されると「大丈夫だろうか」と心配したりして、日常の当たり前やふつうということは、常に変化するものだと感じる1年でもありました。そのような日々の中で、やりたいことが思うようにできないこともあったと思いますが、それでも置かれた環境下で、皆さんは学習規律を守り、周囲への思いやりの心をもって学校生活を送ってきました。新しい生活様式に何とも柔軟に、粘り強く順応しようとしている皆さんの姿に、頼もしさ、若い力のたくましさを感じることが多々ありました。これからも、自分自身はもちろん周りの人も大切にして、引き続き、松中魂あふれる学校にしていきましょう。



## 「スクールESDまつばら」の取組 ～ 松中ベジクサPRプロジェクト ～

本校では、体験的な学びを通して様々な地域課題の解決に主体的に関わり、地域社会の一員としての意識と行動力のある生徒の育成をめざしています。その具体的な取組が「スクールESDまつばら」です。本年度は、校区の草津ブランド野菜「ベジクサ」に着眼し、その魅力を探究し、校区に根ざした農業を未来につなげる活動を展開しています。

これまでに、地域の農業に携わっておられる方々を講師として学校にお招きし、「愛彩菜(ワサビ菜)」や「近江彩菜」、「琵琶湖元気アスパラ」など草津ブランドの野菜栽培について様々な角度からお話ししていただくとともに、校区のビニールハウス群を生徒会代表生徒が訪問し、実際に「ベジクサ」の収穫や種まき等を体験させていただきました。その後、サツマイモを栽培していた学校菜園において、その収穫後に、「まつばら大根」を生徒自ら栽培することを目標に、地域の方や市農林水産課の方にご指導いただきながら、菜園の整地、土づくり、うねづくり、種まき準備を行いました。

- ① 菜園の整地では、ブロック群を一直線に整え直して、縁石づくりに励みました。
- ② 土づくり、うねづくりでは、給食センターから残食で作られた堆肥を分けていただき、菜園いっぱいにまいたり、うねを丁寧にならしたりしました。
- ③ 種まき準備では、菜園のうねの高さをそろえる体験を行ったあと、黒いマルチシートを全面に敷き詰めました。また、うねの周りにも除草シートをはりました。

そして、昨日、待望の「まつばら大根」の種まきを行いました。これから収穫までしっかり見守っていきます。また、2年生の総合的な学習の時間では、「ベジクサ」の魅力をPRするためのポスターづくりを進めました。3学期に、地域の方をお招きしてポスターセッションを展開する予定です。あわせて、技術科の授業で、ベジクサのPRをテーマにしてプログラミング学習に取り組みました。今後も様々な活動を推し進めていきます。

<「スクールESDまつばら」の取組を展開中>

学校菜園の整地、土づくり、うねづくり、種まき準備の様子です。どの活動でも、参加した生徒の歓声が響き渡りました。また、PRポスターやPR用プログラム作成では、注目を集める工夫をしたり、グループでアイデアを出し合ったりしながら「ベジクサ」紹介の取組を行いました。



<オンライン英会話>

3年生の英語科の授業で「英語オンライン授業」に取り組みました。学習者用端末を通して、生徒一人ひとりとフィリピン在住の英語のネイティブスピーカーの方々とオンラインで結び、これまでに学習してきた表現方法をフルに活用しながら、ヘッドセットを通してそれぞれの興味や関心について話をしたり、お互いの国の文化等について交流を深めたりしながら、楽しく、集中して英会話に取り組みました。また、その体験活動の様子について、地元ケーブルテレビ局の取材がありました。

